

第9回

東大和市社会教育委員会議 会議録

令和7年1月21日（火）

令和6年度第9回東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和7年1月21日（火）午前10時～12時
- 2 場 所： 第6会議室
- 3 出席委員： 池田陽子、外池武嗣、才郷正次、杉本誠一、森脇千春
橋本智保子、半田道夫（7人）
欠席委員： 和田孝、鈴木進也（2人）
- 4 事務局： 岩野生涯学習課長、小泉生涯学習係長、荻沢主事、岩渕主事（4人）
- 5 内 容： 議題（1）研究テーマの検討
議題（2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： 1人
- 8 配布資料： 資料 令和6年から7年度提言の研究主題設定に向けて
公民館だより

9 議事内容

(1) 研究テーマの検討

研究テーマについて以下のとおり議論した。

事務局より、前期までの会議をもとに、今後議論する提言の案について説明した。

①小さな災害

・委員

市内で、防災に関する新たな団体が昨年できている。それから、自分が所属している他の団体では、防災に力を入れている自治会に、取組内容を研修会で講話いただいた。障害のある方を助けられるようにヘルプカード講習会なども行われている。

・委員

小さな災害というのは、地震等大規模災害ではなく、日常の小さな火事等に対する意識といったこと。自治会に入っていない人たちにも情報がいき渡るようにした方がいいということか。

・事務局

自治会に入っていない人たちへの注意喚起にも繋がっていくかというところの発言というふうに事務局として捉えている。

・委員

自治会は、若い方、新しい方の加入率はどんどん下がってきている。この問題対策の1つのキーワードが、防災、生命の安全に関することではないか。以前、防災に関する講演会を実施したが、参加率は少なかった。皆身近なものとして、実感できていない。何かの形で動機付けできたらと思う。ひきこもり中高年については、繋がりをどうやって作っていくかっていうのは1つの大きな課題である。

・委員

興味や共通の話題等、少しのきっかけで外に出てきてくれる方も多い。近所付き合いが苦手な方も多いが、顔見知りになることは大事。挨拶をするだけでも、地域で知り合うことが1番防災防犯に繋がっているのではないか。

・委員

障害者等の避難について、いざ何かあったときに、助けに行く必要があるのかどうか分からない。情報がいきわたるというのはよくないこともあるので、そういうところが難しい。

・委員

火災や事故、金融詐欺。こういった個人的な小規模の災害について防災防犯それから事故防止この3つを、サブテーマ“誰もが幸せになれる”に結びつくかと思う。幸せになれるというのはものすごく幅広いため、安全が守られた幸せという、安全というテーマに絞っていくのが良いと思う。安全を守るための、防災防犯、事故防止というような観点で1つ。もう1つは、中間団体の中から、安全が守られた幸せな世の中に関して、団体で連絡網のようなネットワーク作りを投げかけ、反応してもらった団体をもう一度掘り起こして活性化するような提言という方法が取ればというふうに思う。サブテーマとして1つ付け加えてやっていくのであれば、外国人が災害時には非常にハンディキャップが大きいので、そういう方に対するネットワーク、連絡網を作れないかという提言ができればターゲットとしてはまとめやすいのではないかな。

②地図の作成

・委員

まず、いろいろな中間団体の名前だけではなく、連絡先とか代表者とかまとめる作業をする。それだけで、すごい大きな資料になると思う。その作業の中で、足りない団体というのも分かると思う。そこに対して、新しいネットワーク等を作れるのではないかな。例えば、障害者の関係団体についてまとめて冊子を作り、問題があったときの連絡手段を構築することも1つのネットワークだと思う。話は変わるが、中間団体の次の世代の担い手不足というのがすごくある。これはどのような団体でも言える。そこに、若い方たちが将来加入してくれるとか、将来地域を見守ってくれるようなこともすごく大事だと思う。世代間の交流が図れたら、きっと防災防犯にも繋がる。まずは知ってもらうことが大事。そのため、どんな団体があるかまとめるというのは一番最初の土台として有効なのではないかな。地図を作るのも1つかもしれない。

・委員

マップの案が出ていたが、どういう単元でまとめていくか。

・委員

以前事務局資料としていただいた一覧に付け足していくか。

③若者の受け皿

・委員

新しく若い人、その他の人をどうやって啓蒙していくかが課題である。

- ・ 委員

その後継者がいない問題であるとか、どの団体も今まで散々考えてきたことですごく難しい話。そのため、どうしたらいいか考えてもなかなか解決できないのではないかと思う。どういうふうに提言にするのかが見えない。

- ・ 委員

若い子たちが何で情報を見ているのか考えると、やっぱり携帯。携帯のインスタやtiktok。そういうところから情報を得て、ボランティアが流れてきたからエントリーしている。

- ・ 事務局

ローカルな安全面を守られる幸せというところを主のテーマとして、新しい中間団体のあり方を提言のメインテーマで、お話の中で出てきた自治会に入っていない方とかどこにも属さない若者たちとかひきこもりの中高年とかそういったところも受け入れられるような中間団体というのがサブテーマになってくるかと思う。今日の段階で出てきた意見をまとめて次回の社会教育委員会議で、案を出させていただく。

(2) その他

事務局から1点事務連絡を行った。

- ・ 事務局

令和7年東大和市二十歳の成人式について報告した。

- ・ 委員

今年は去年の小ホールのライブ中継は映像が悪いと聞いたが、今年はどうだったか。

- ・ 事務局

今のところ映像が悪かったというお問い合わせはない。

- ・ 副議長

本日の会議のまとめを行った。

- ・ 議長

第10回東大和市社会教育委員会議を終了する。次回は2月18日午前10時から中央公民館301学習室で開催である。